

# 宇治橋の再興と 十三重の石塔

宇治にお茶の栽培法や製茶の技術が、どのようにしてもたらされたのか、具体的なところはまだよくわかっていません。

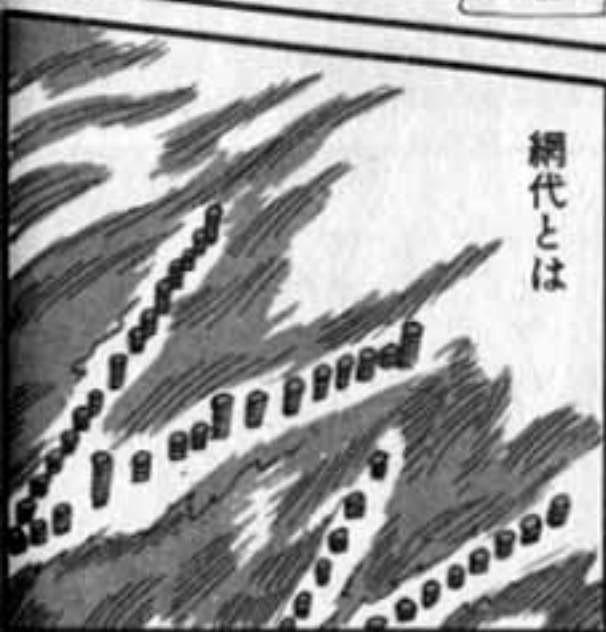
けれども、宇治茶の名声は室町時代にはほぼ全国的に広がりを見たとすから、そのはじまりを鎌倉時代においてみても、けっして不自然ではありません。

その鎌倉時代、宇治と関りの深いお坊さまがもう一人おられます。その名は観尊。

まあともかく、僧侶としてたいへん厳しい性格の人だったようです。



戦前(二〇〇一—二九〇) 大和国和歌山(今の和歌山県和歌山市)に生れ。西大寺の僧として律宗(隆徳天皇の御一人)の僧。





いよいよ  
始まりましたな



京都の東山・大谷の  
亀谷禅尼からの  
多大の  
寄付も  
あった



何としても  
橋を架け  
たい  
橋を求める  
皆の気持ちがこの  
工事をきつと成功させる



橋の工事は  
着々と  
進んで  
おります。

きつと  
この橋によって  
宇治は  
栄える



間もなく橋は  
完成する  
喜ばしいことだ



京の人々も  
喜んでおります。  
まこと喜ばしい  
事に  
ございます。



周辺の  
人々も  
喜んで  
おります





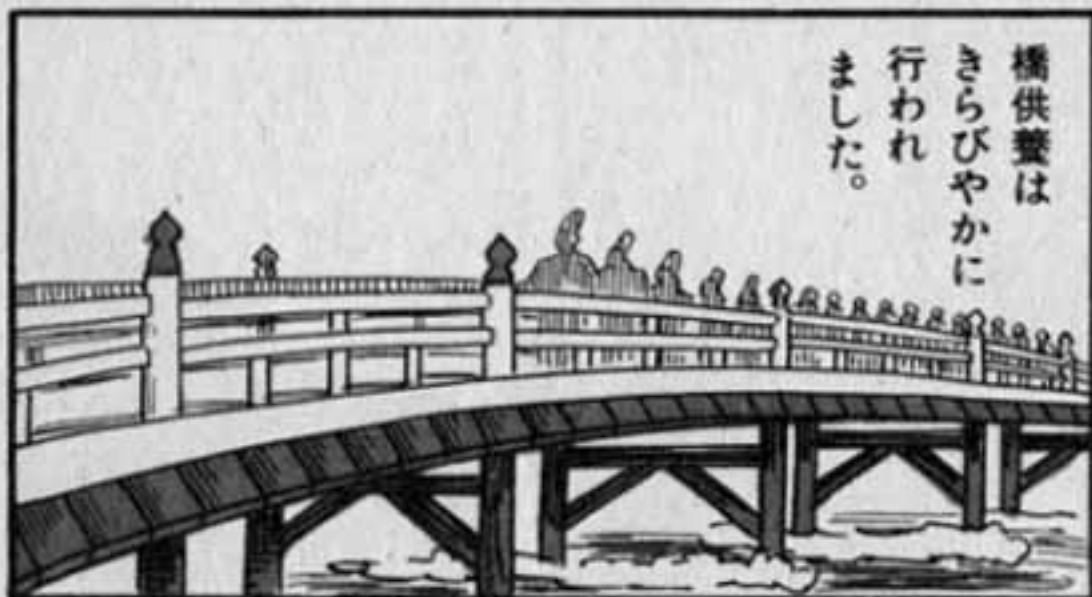
再興されました。



二年九ヶ月の  
月日をかけて  
宇治橋は



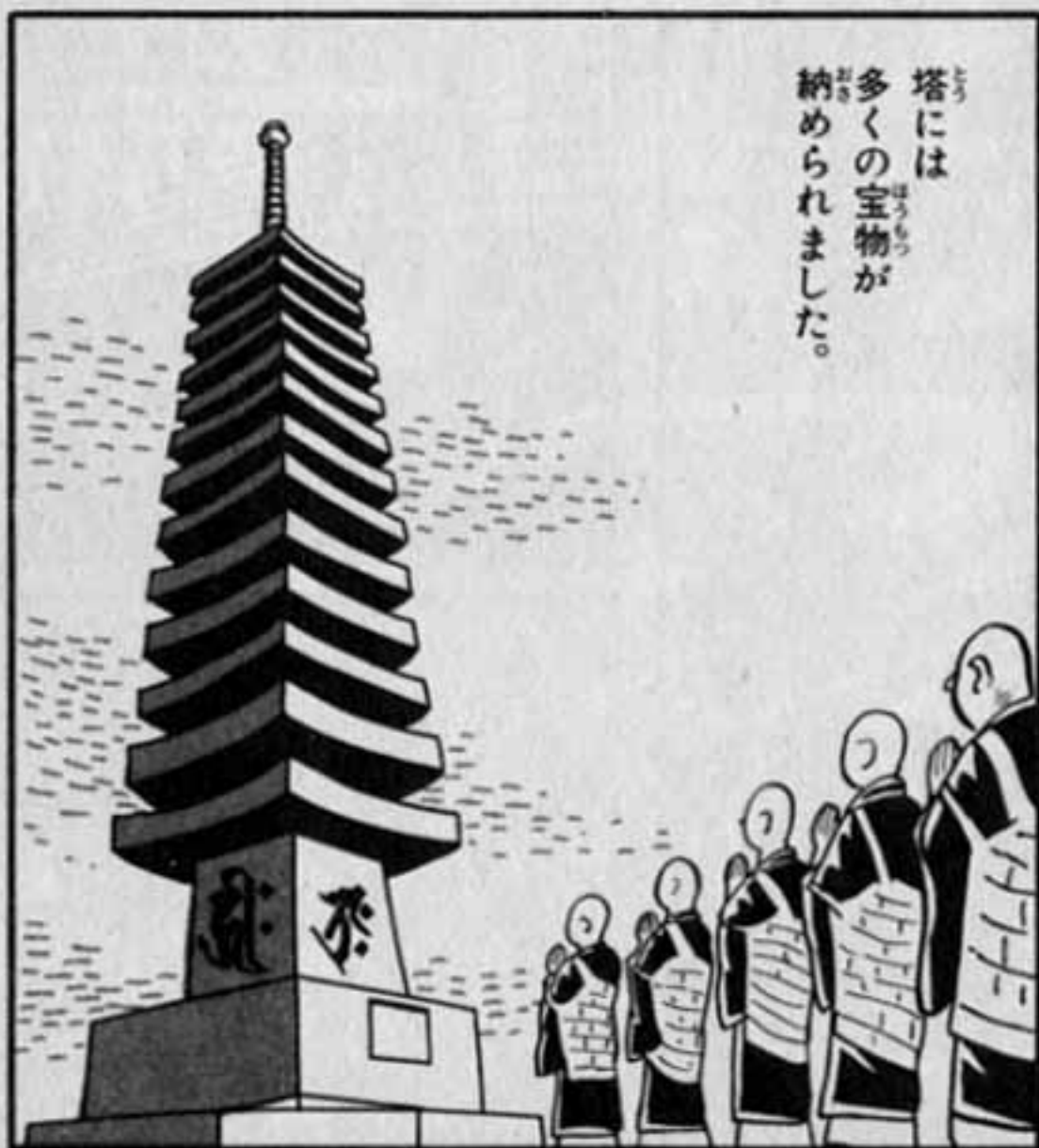
盛大に橋供養を行おう  
僧は二百人  
動員しよう



橋供養は  
さらびやかに  
行われ  
ました。



多くの人々が  
参列し



塔には  
多くの宝物が  
納められました。



宇治橋上流の中州に

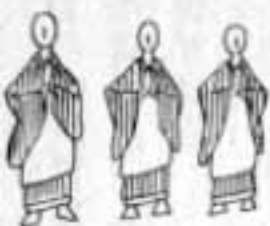


漁具・漁網などを埋め  
十三重の石塔がたてられ

この時の塔の相輪  
(上の部分)と伝え  
られるものは  
興聖寺に  
残っています。



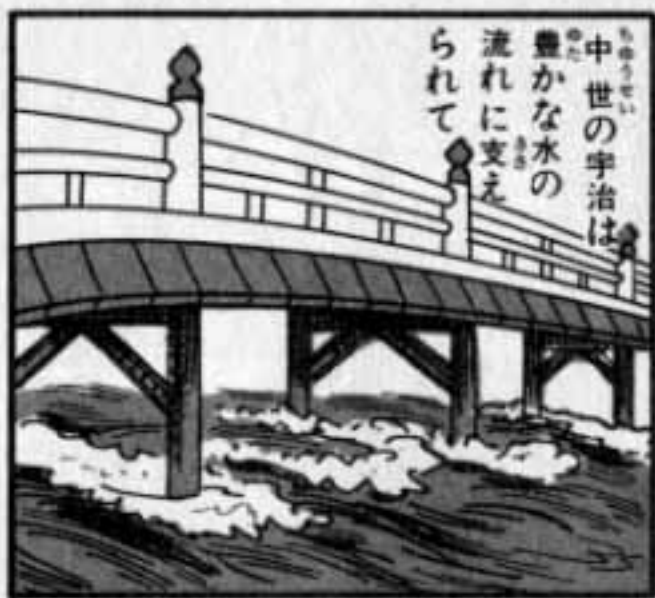
この石塔の  
もと宇治川  
兩岸の水辺の  
村人がこれ  
からますます  
繁栄するよう  
がんばって  
ください。



宇治の大橋よ  
人々の生活の  
要となれ  
末永く  
.....



中世の宇治は  
豊かな水の  
流れに変え  
られて



町や村の有力な人たちによって  
自主的な地域づくりが始められた  
ことも、この時代の特徴といっ  
てよいでしょう。



農業はもちろん  
商工業も発達  
し、宇治橋の  
周辺には  
商人が軒  
を並べま  
した。

